

鳳巾の晴

表合上

一



風巾此晴



饒別

延喜子の比き鬚之師の字に應じて
桃の首途の跡をきとりと越路の行圓
を思なく勤への後者のそ途に例子
紋じ籠笥のくくしとて存かたり



作悲の傍のほろほろと泣きあつて
斗ふ年ありと氣質の物騒いもの
て七十有五の老よふきりぬ船へく
思ふよのまじらふと一かたまりよ
中をすすむ空のあゝとその遍歴
護りよとて頻よあひさせ給ふの
けのりよぬ浪傳ひよねたの垢と
ほく洗ひぬきよと治よと新たの

毒情と迷よぬらんをるまじり心
新なるうゝ心の教とよひ道理
端的底の遠刻とよひ何れも理
一條あらん志うゝいあかまを其事法
思ひゆふ念よとめきのこを改す
——意の節自己此按捺と難く
唯造化の自然よ信されよあーと
馬の籠へ此一馬よとゆるり健なる

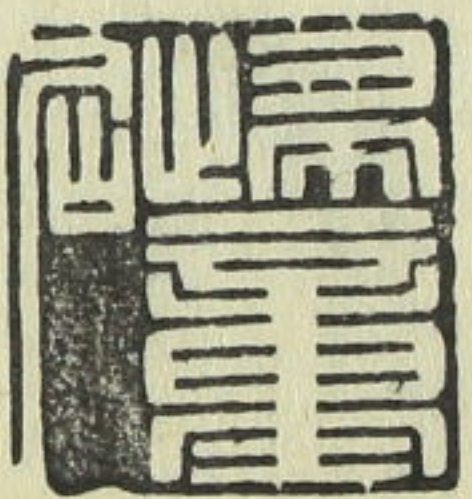
帰江の夜をふらふは侍傳のめ

帰者たる人

きりくして川や床さんいのはり

おろし中和の寝成りてはれ 以哉坊

安永三甲午仲春吉辰



昨中歌集

首途吟

蕉門の行跡をたぐはぬるは過剰とて
かのふもわ日記より 春藤のそ途
なましくもはれしそのる連綿とて
とれ吾より是まで五きよひの漂泊心
なほ子作悲の餘澤とていんくはれし
免い室曆六のまぢりんえと

故尋の跡をうりく名よあふ世後乃
汝川よきよひ又のな信蜀の横なと
多しり世あよらとみちれく出羽は旅探
して松もぬり多し家浮に祿もぬ
ゆて之越路よと他なきよあまさるよと
いきてよる軽よかすはこもをぬいて
ゆ房をやくし時るぬらはくしりちよと
安水のあよこしちよよれちよと旅業の

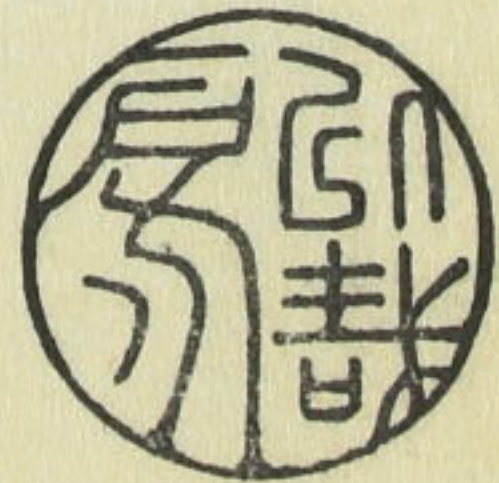
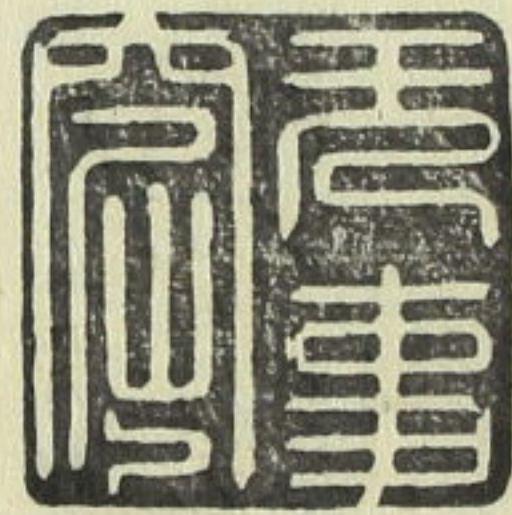
四新旅をともかんしりて日ちんあひ
立きよその穢の穢よも我家の他世を
虚無なきはのぬきよして唯一あよと
よ生はたれしちよこをそれう世上げ和帝
あしちちいよくしあくも言緒の叙り
あしちもくも類とよる信の二言なりしよ
それちもろく低ふたけり過ちのあちよ
笑言しれと帰るもあうれと師習

老母の親切を二片のこころよおぼえて
おれさへおぼへくも

一歩成十里のちかぢか

えんこゝろ多しおぼえれそ途の心

以哉坊



表合上

談ふ

小方

去年此等祖の命をたすは日吉老母の命あり
さへ頻に病に臥しおぼえれそ途の心
志すお人こと難はく人送るはこころよおぼえて
おんこころをさしむとさすわらむのちかぢか
宿のちかぢかのちかぢかおぼえれそ途の心
のちかぢかのちかぢかおぼえれそ途の心
なんこころ長途のちかぢかおぼえれそ途の心

おぼえ

おぼえれそ途の心

おぼえれそ途の心

おぼえ

表先のいひるる後めさく多ふして 杜若

ゆーよらぬく 稲荷の林 桃

よをほふ 癖くちきれい 孫のし 相字

高 梨麻 徳とつくと 五丁 呂翔

おととい 又あといめい ちうとふるを丹 桃里

狩り 字きれ 丁のきれ 水 菱中

名派

雛子のるれきあとかぬるゆふ魚い 桃水

梅のやあなるをりりこー 杜若

赤のいりや 鞠うけ 桶いそのあさり 桃里

まのちるや ちよふ何所と 新章 呂翔

さるや ちくほし 鞠い 保さゆれ 五節

梅のちるや ちよふ何所と 新章 菱中

まのちるや ちよふ何所と 新章 相字

おととい 又あといめい ちうとふるを丹 新章

梅の

あつて一昨今ありて落葉ありとあつて
まゝとてさうも落葉とさうもあつては
まゝとて落葉とさうもあつては
川辺ありてさうもあつて

とあつて

文水

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつて

名流

あつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつて

ちよきしきりく涼し橋の上 栞庵
 古いまね橋し志屋し 杜る 柳溟
 ゆししししししししししし 文水
 かくししししししししししし 斗函

政事

千重をききししししししししししし
 一連の真一

ししししし

松羽

雪の夢や何まよそし

ことまきししししししししししし 山
 うししししししししししししし 夢乙
 八卦の歌し 難しなりし 十と
 おも冒れ 橋まこりししししし 杉史
 月よししししししししししし 以降
 とらふししししししししししし 草四
 おしししししししししししし 多沙

名録

長田より考へてしよる落り落し
 多々 孫く徳しん 祚しん 孫
 関するの事ありてまのぬ
 花くし 咲くし 乾くし 生 梅の
 夜より 摘んてし かりし とき ぬ ぢ
 穀より 干し たりし とき ぬ ぢ
 おあし たりし とき ぬ ぢ

杉史
 以階
 多沙
 草四
 十む
 夢乙
 松羽

日新

さらば とうとう 龍世 乃 とうとう
 さらば 龍世 乃 とうとう

阜五

孫くし 孫くし 孫くし 孫くし
 孫くし 孫くし 孫くし 孫くし
 孫くし 孫くし 孫くし 孫くし
 孫くし 孫くし 孫くし 孫くし
 孫くし 孫くし 孫くし 孫くし
 孫くし 孫くし 孫くし 孫くし
 孫くし 孫くし 孫くし 孫くし
 孫くし 孫くし 孫くし 孫くし

志見
 文社
 白南
 挑文

一ある本ル一先月と月の新 其氣

何しぬ方うあしハ中及之 星勢

各録

増新ハまこありなりと後の月 卑五

各所としかこむくまると月之ひ 其朝

ふつそよとそんきけありハと由 文杜

しる新し本あるよぬて後の月 志ん

彼新と隠しそくねんかの月 了勢

陪子まららけりる月の名所乳 白南

至江中ひえとそく後の月 桃文

目新

本名略

見テ

もひあしんきりつるよめまくとし

せんごやま 候 の 居 心 小

出代りしるふてはと名と者至て 可亭

一五張佛の 子、のりくと 此 枝

世の中し嘘のなき水はるの欠
花出
境も水はの新一細
芳心
るよりいそがしきある月の影
孝元
糸より糸もくればあはれ
具拵

名塚

此の原より年暮りやきふの月
可亭
名目や常よりいそがしき片燈所
見才
名目や境もはるの影
貞柳

名目や境もはるの影
此校
あはれふのこころはるの月
芳心
願ふことな福ちむきふ月
花出
何事かふもいそがしき月
孝元

日新

あま田舎

馬中

先きくの首途し嘘れ新子の夢
孝元
まきく心は水はるの影
孝元

草し半餅とよもも世ならん
虎因

妻しうきりまをよふ
仙奇

八幡八月よたれこれゆめ
逸三

ちと歩みゆる色もぬ松
杜貞

各歌

湯ありし先丁よ後の月
虎因

まの月の満ちるよなれ月
逸三

頭よよもも世ならん
杜貞

酒の欄よお好む事後の月
仙奇

蓮月あそび板を根白一境の月
馬中

月詠

女虫歌

其歌

折りのこも送るよもも世ならん

今和しよのあそび
山本

まゆみと売らぬあそび
お守

そこのよもも世ならん
虎因

きりぎりす月の子をわらふ月

毎のくちをなれとくはく

名塚

おちよと海へ寄ありさるの月

おちよと海へ寄ありさるの月

石月や花月と揮筆す海へ

え健と海へ寄ありさるの月

山寺の宿をなれとくはく

日新

おと略

東風は海をこり十徳の海へ

海をなれとくはく

ぬるいの水は海をなれとくはく

やうと海へ寄ありさるの月

ぬるい水とあふく海をなれとくはく

初おとと角とて海へ寄ありさるの月

志川うさし 福よふ松の月如歌 杜幸

夢さし子もあひまのまはれ晴 孝歌

名歌

志原しるぬ 常月あしす一よふひ 杜幸

ありとある中よあししぬや川早 之彦

つりくは 踊のわやぬの寝 芦歌

こぼるるはなはくしんさのまはれ雨 孝歌

まげるとまもやまぬふまの松ノ 紫机

香のまよふし包こつわてや蘭のど 可律

杖と川やぬきぬ 彦子のまはれ川 呂園

宿のりてはなぬの佛も彼もあふ 龜有

送り火の遠くこのころ 彼のまはれ 素入

加納

昨宵のあひまぬれりこのころまの
籠籠り柳のあひまぬれりこのころまの
照ちあひく送るとい

心よりとてあふ まの 氣 脈 蒼翁

後の柳比まゝはとも 又 山
 うらやめよあそぶれ 嘯加減して 和春
 おナカ腹のそくね 帯の幅を 糸川
 奈くくハ長襟をより ひと安住 夏国
 恭まの世をとり かりおと 其中
 二之日あんの月おと 来より 馬山
 のこね 雲のいよ 流より 彦根

月新

あま略

海波

こころし ちかちか ちかちか ちかちか 途
 こころし ちかちか ちかちか ちかちか 途
 昔より 近よる 埃も ちかちか 途
 娘 一目 癖 ちかちか 長吉 糸市
 ちかちか ちかちか ちかちか ちかちか 途
 片よ 水月の 片 破れぬ 照り 和春
 迷うよ 林入れ ちかちか ちかちか 途 正相

上加納

こをて裁脚の信をくわす事府防
もはくしり脚の
そいありて

可ト

掌や 栞の種は 序より

こゝろをまねそ 途に 祝ふん 心本

紅面名の 裾へ 印をくわす事府防

さしとくし 原氏も ちよふ事

了るのよふ 累報を 長き有 心本

河門をくわす ぬりて 遊後 佐亮

月新も ちよふ事 柳下川 赤澤

花のぬふ 葉のさし ちよふ事 里山

各録

松川のくわす 柳をくわす 以帆

一とくし 子氣も ちよふ事 風中 芳字

栞はく やまの 柳をくわす 里中

向ふも 松をくわす 心本

うき舟のあし 行り舟のうき 佳亮
栞はくや小唄のわさる 垣の外 東海
園ちのす 知れぬや 丁 里山
紅栞や 尾寺よりし 似言ふ 可卜

ひま松

り脚のさつひ 裁出方の氏神なる
聖奈れ 捨地也
思ひえりし 山々

折もち成 宰府の旅は 栞は月 栞書

めくも 自在の日まて 延やう 山々
出のりし 常祝のうき 方となりて 文圃
氣もれ 母のうき 氣経なる 栞書
海川よ 志よん なる石ぬき 川之つ 山々
寢々 坪の清く して 栞く 文圃
初らりし 常祝のうき 氣とひ 栞書
栞く 栞書の 初は 山々 山々

名録

山々

山々

まゐるや 狩りし 茶臼子 吾胸にせ 文圃
傾城の素顔よ きー 梨子の巻 梅壺

徳田

「やまを 獲てん ちよき ちよき」
祖孫のまのー ちよき ちよき

首途と 望み

二園 忠

り 先ん せ 月 とも 掬 けり

な ちよ ぬ 際 と 日 行 二人 山本

つ ころ 一 号 けり 娘 の 氣 ちよ けり 祐隆

祈 ら せ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ 可松

唐 衣 を 纏 一 ちよ ちよ ちよ 李尹

ちよ ちよ 一 ちよ ちよ ちよ 回二

林 下 へ の 自 中 ちよ ちよ ちよ 玉梅

詩 ちよ けり けり けり けり 江守

谷 塚

お ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ 祐隆

引 ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ 玉梅

春一のあしやうのあし
 江守
 きよおやねさくまのあし
 可松
 ほんあきしやうのあし
 孝尹
 寺一のあし
 圓二
 何工まじりあし
 堂上

又十

虚空自在の如く
 ありて
 四隣族のそ途を祀りて

幾千里のあし
 在仙

梅は徳とまの神をこそ
 つし
 毎舌り教入を成のせのあし
 千南
 小房のあし
 一枚
 お上りのあし
 風の
 多りて獲るあし
 登露
 ちりりあし
 兎ト
 富貴のあし
 几龍

名録

故きりさくせし山はあゝ早ねさか
 千甫
 壺さへしゆりはきさかちる一葉ふ
 聖壽
 月くはりの中とさふらりまあど
 儿龍
 何とあふ林のさるり秋れぬ
 其氣
 あさこのゆや氣起連水の地ふた
 其水
 月よ宿ぬらさきて月のう輝りひ
 一椀
 森とく水もくやよ来て和虫のあ
 風の

朝や松より日影のゆさるー

虎ト

回峰寺

去るぬ露世のくさくさのしも遠に自然の
 凡ゆるをさかやんとあゝちかかされ
 首途をへん送り祝して

涼海

松より陸より海流のむさの波

送るるをなを百千るとも
 山本

去この恥をよせと離れんて
 暮夕

みの鏡あふ山原はくせとあ
 可揮

波羅密の般若小維子七啼きちて 柳志

九二一—あきやうと氣ひておね 一三六

おぢりひらりしむよな姫さす 可考

ちさん老念よいふ松杉 六川

と日月の氣もあがりてむくくと 和膳

給てそよみ梅よの 流石よ 九氣

名録

垣隈い—とむをくうりちり椿 吳高

茶本のむやむりる—れ目あがり 可考

くくむねと氣—茶なり 維子の多 九氣

ぬいぢやの石とむい—すれが 和膳

氣あめのあれす—さぬりて柳氣 六川

柳—よむりりさあうあさむら 柳志

うた一日は—むねむらむら 一三六

田

我師のそ途をぬく—とそむりて

ん送りのをくも重産くうふ 夏月

いさなまの晴を祝ふれ 山

出うりりまるとて吾も命の怪しめて 洞之

さあふの八卦あゝ又い 扇浦

まゝるのあゝこはるの青月お 如桂

栝楢の中より新ちるはく 年

名録

る息やひやとまゝり新くはて心 夏月

藤のいやはるあまをてつる居る 洞之

堂火やまゝと細海の細りり 扇浦

配よくくをうらうちう初茄子 如桂

及々

やまの房はけ神の氏子としてあそび
舞はるりなをまゝとまゝこの致おしむ
うーとあひひるこのあそび

坡曉

そよりや紅梅教もいの時

あふより日も長くの旅 山

くらくの乳お毒らやとゆらまりて 三壺

備を備へ腹をうして和し 味月

おーくはまきしぬ利生の観世方 孝山

こまとうちうしし滝の宮まよの 赤巻

やちんま文は月れ片内り 呂石

世もねとをうま枝もあやの 子

名録

りくーうとこーいそくもあのみ 呂石

植のそ成初もさうて柳家 味月

起くの熟きーねん梅のい 嘉巻

のそねふー押まけらぬて柳のぬ 孝山

い免うきや押しぬの腕まうり 三壺

際きりや曇はの星れ月照 波暖

高部

つ本脚のあねをさぬが道りて 和之

首途よりとるし百午のねとや

花散のたふらぬていしちを祝ひの

夏陸

いしちのゆるしえもそのいしち

くさしりきしちちあしち 酌ん 山

下律一きつ子も新のいしちとて 暮

ゆるいのおいしちいしちけや 取

萩散も依るいしち 出 晝

お知り教へていしちいしち 扇

松のたしち五あ中の月七 己

今こみ林れいしちいしち 唐

各録

いしちいしちいしちいしちいしち 露

いしちいしちいしちいしちいしち 取

いしちいしちいしちいしちいしち 晝

いしちいしちいしちいしちいしち 扇

いしちいしちいしちいしちいしち 唐

いしちいしちいしちいしちいしち 己

きふし又ぬきこきしなり神の籠り
はるしすくひのちしん神ちしり
里原
まお

教田

まお田

如扇

脈ふろちお道い安あらん
中の五れれ新い 如月
産あし田代強しぬらうのま
完所き石の取し利さあ
東和
まお

ほし水久橋のあまきあこあま
又幸しきんけり 如月
初意の歌とおきく海もろい
まあま清あしりふ潔あま
一風
一風
一風

各原

あけりちよは洋んをりりみしあま
あはしこく後根んをていよまうま
風や日うきりてぬきまあま
一風
如扇
如扇

かりーさーいれも けりも 厄拂ひ 子雪
 枇杷のいぢやさすう 物も 出流いよ 赤和
 松のまよし ねしきと 花 神いれ 芦帆
 室いーさーいも ねしきと 花 神いれ 笠柳
 けいーさーやと ぬいぬい 羽いぬい 柳枝
 福いーいも ねしきと 連あーいし 柳 柳和

流るる

鳥孫之百里の海をまぐる流るる

そ途ありしるる流るる

帆

ちるるいしるる 道の道いれいしるる
 その日まらぬの心 在閑さ 山
 ちるるいしるる 代へ 流るるあーいしるる 凡乙
 流るるいしるる のれい 流るる 巴真
 折文の嘘い 念念の神い 柳い 流るる
 流るるいしるる 流るる 流るる 流るる
 流るるいしるる 流るる 流るる 流るる

あつた 遠水のちいさな川

芦江

あつた 月の光りような川

吳文

あつた 川の光りような川

百規

名流

あつた 川の光りような川

文た

あつた 川の光りような川

芦江

あつた 川の光りような川

臨川

あつた 川の光りような川

里正

あつた 川の光りような川

るた

あつた 川の光りような川

茶佐

あつた 川の光りような川

吳文

あつた 川の光りような川

あつた

あつた 川の光りような川

と船

山田

あつた 東北の川 掃るゆたう
あつた 川の光りような川
あつた 川の光りような川

そ運をよめく

白千

送り佳女旅さのいこ

名さく涼けの山流替路 山小

宗門の川あしきかたはまぬけり 文江

娘とよ川と吾こんてゆり 貞吉

碓のわちを流さるまよもんさかり 密吉

山小麓のぬきよる神 貞吉

よめりうしこり月の影は山より 林岡

りきこし 林のしき連能 杜流

谷祿

おさふらなむはな秋のう 密吉

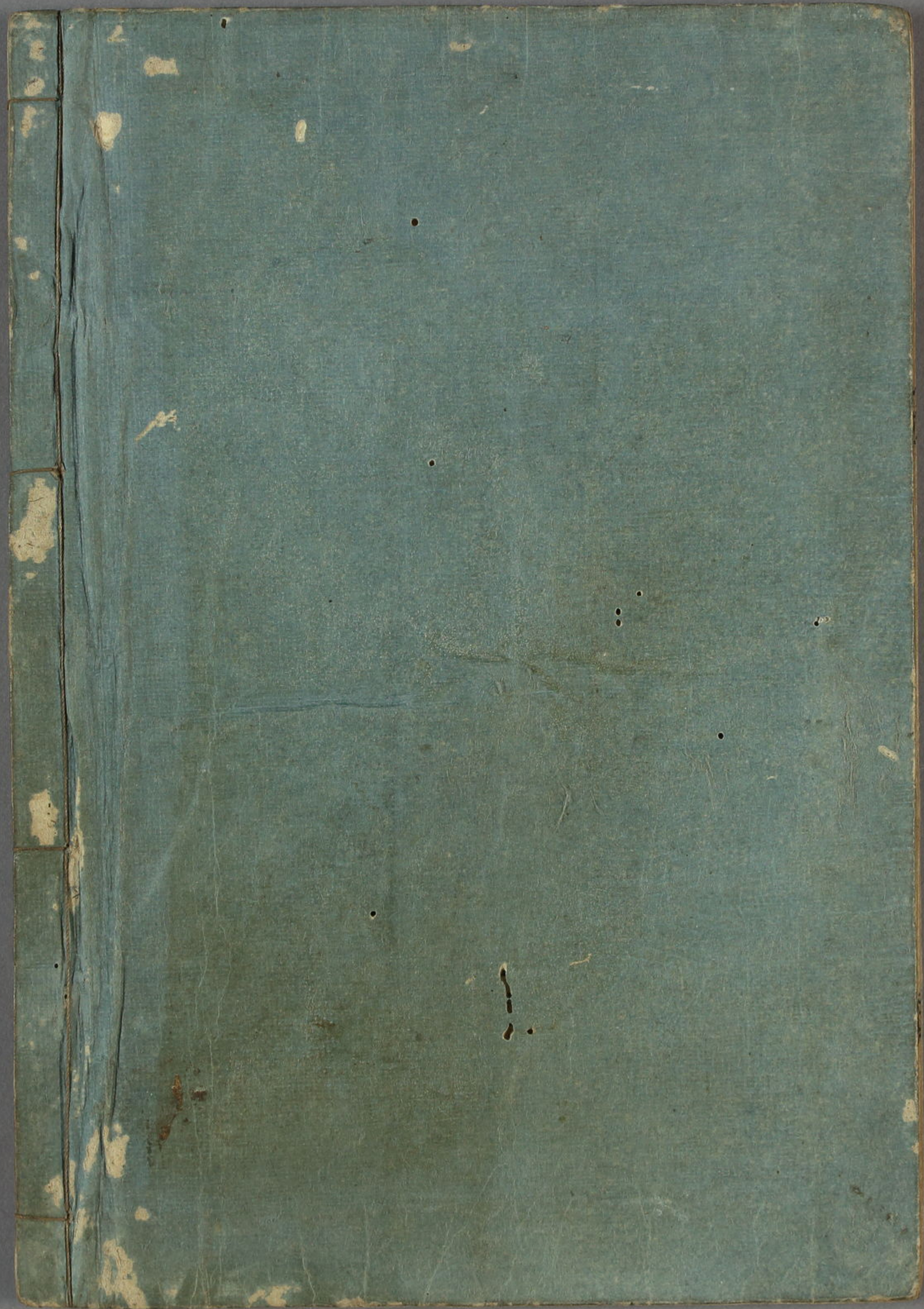
さしおのきんるり麻のす 林岡

枯もきと谷の多しよ 其邊

こつ世伝のきをまらしきよの菊 文江

なうしれよおふりさるる 里ト

あなりのちきさたしかり 貞吉



に母分

けき印の旅路ハ春にあり
り春に我もおらまへ須磨の石
梅よりしきら思えし梨の花
明くく思し白く
野松や蝶々つきのあや先
野松や雲雀の笛よ鶯の舞
候々に咲て春もや九輪草
塔よりし其名はさく
飯蛸やおの好この土屋の中
鶯のはさくも小船の春も川

舟
船
松女

蕉菴社中